

「英国の人とまちづくり ―日本へのメッセージ―」

(著者；井上聰史、発行；PIERS 研究会)

出版記念の集い

日時；令和 7 年（2025 年）3 月 7 日（金）16:00～

会場； SCOPE 会議室 + ZOOM Webinar

PIERS 研究会設立以来その中心メンバーとして活動されてきた井上聰史氏（政策研究大学院大学客員教授、PIERS 研究会副会長）が、これまでの PIERS 研究会での現地調査や研究の成果を踏まえながら、英国の栈橋や海岸リゾートの魅力を整理するとともに、英国の風土・文化や海辺をいかしたまちづくりの歴史・知恵について著者のこれまでの深い経験と学識に基づく独自の視点で分析され、日本への提言を含めて、「英国の人と海辺のまちづくり ―日本へのメッセージ―」として上梓されました。

2013 年の設立から 10 年を越え、英国栈橋や海岸リゾートの魅力の発信からはじめて PIERS 研究会が目指す方向も、「人と海辺が主役のまちづくり」を実践してきた英国の知恵をいかし、わが国に魅力ある海辺空間を作り元気な海辺のまちづくりや地域活性化へと繋げていくことに広がってきています。この新著は今後の PIERS 研究会の活動にとって非常に有用な参考書であり指針となるものであることに鑑み、PIERS 研究会が発行することといたしました。

この大書を短期間に取りまとめられた著者井上聰史氏を労いその出版をお祝いするとともに、本書が幅広く読まれ海辺の魅力を享受したまちづくりが日本国内で進展することへの強い期待を込めて、このテーマにこれまでも高い関心をお寄せいただいていた関係者の皆様とともに出版を記念して一同に集う会を呼びかけ実施させていただきました。

井上氏の記念講演では、ご本人と英国栈橋との出会いや PIRS 研究会設立時の経緯、英国現地調査の準備や実施時の苦労など興味深いエピソードが紹介され、英国臨海部の多数の都市と親水空間の実情を地域別に解説、なかでもまちづくりの特徴として海辺の防護と利用を共存させる水際線に沿った遊歩道であるエスプラナード（PIERS 研究会が独自に命名、提唱）、そのエスプラナードと栈橋のネットワークや堤外地の活用を指摘され、これらを踏まえての日本の新しい海辺づくりについて著書にまとめられている提言に触れられ、次のようなスローガンが提示されました。

海辺の素晴らしさや魅力を気軽に楽しめる日本に！

地域の海辺に誇りと愛着をもてる日本に！

PIERS 研究会の主催、（一財）みなと総合研究財団（WAVE）が共催、また（一財）港湾空港総合技術センター（SCOPE）には会場の提供・設営他で多大のご協力をいただきました。

当日の参加者は、国土交通省の技術総括審議官、港湾局海洋・環境課長をはじめ港湾局・航空局・各地方整備局、また内閣府・復興庁、港湾空港技術研究所、財団、地方自治体、学識経験者、民間企業等から 102 名（会場 72 名、リモート 30 名）となりました。

プログラム

① 主催者挨拶（[ビデオ](#)） 古土井光昭（PIERS 研究会 会長）

② 著者記念講演（[ビデオ](#)、[発表資料](#)）

井上聡史（PIERS 研究会 副会長、政策研究大学院大学客員教授）

『英国の人と海辺のまちづくりー日本へのメッセージー』の執筆・発刊を終えて

③ 共催者挨拶（[ビデオ](#)） 小池慎一郎（一財 みなと総合研究財団 専務理事）

④ 意見交換会